

平成 31 年 1 月 23 日

EXPO 2025 提言(案)
～新国家戦略特区「スーパーシティ」構想を活用した万博レガシーの考え方～

2025 年万博の意味

- 1)「実証実験都市を大阪・関西に作る」
- 2)時代を先取りして、2030 年を 2025 年に見せる場
- 3)Society 5.0 を実現する場
- 4)2025 年に向けて実証実験を繰り返し、SDGs を解決するイノベーションを創出

1. 万博全体の構想

- 1)万博運営自体をデジタル経済圏形成の実証実験プロジェクトに
 - ⇒地域通貨(EXPO コイン)の発行:会場内・地域内のキャッシュレス化
 - ⇒地域通貨(EXPO コイン)利用者に、前売り券先行購入や万博開催後の備品オークション参加などの特典付与
- 2)個人位置情報管理システム
 - ⇒生体認証と組み合わせ、キャッシュレス決済、国籍・性別・年齢・血圧等バイタル・会場内行動・消費行動等の個人情報を一括で管理
 - ⇒ビーコンとスマホアプリを利用して、位置情報管理
 - ⇒混雑会費のために、パビリオン予約・混雑状態・時間管理をトークン付与で実施。
 - ⇒パビリオン来場時にチェック不要
 - ⇒対応時使用言語による自動音声案内を可能に
 - ⇒ビーコン情報利用で迷子の子供の発見、連絡。幼児・小児の見守り機能。
 - ⇒生体情報を利用することで、不整脈の発症などを予知し、事前に診察室へ連絡。高齢者の見守り機能。
 - ⇒移動交通手段等他の情報と合わせたビッグデータ活用
- 3)自動走行・自動配送:いつでもどこでも必要な移動配送サービス
 - ⇒上記システムと連動して、移動配送サービスを実用化

2. 政府パビリオン要望:先進医療モデルルーム館

(1)万博のレガシーの継承施設としての政府館

○万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」。長い健康寿命、健康でイキイキした人生といったイメージが想起され、健康、ヘルスケア、ウエルネス、メディカル等のキーワードが連想される。

○そこで、日本政府館は、これらキーワードに関連する内容を展示し、閉幕後は万博のレガシーを伝える施設とする。具体的には、日本政府館を、健康・ヘルスケア・ヘルシー・ウエルネス・メディカル・フィットネス・エクササイズ等に関する日本の研究開発、先端技術・サービスのショールームとする。

(2)日本政府館・主催自治体館のイメージ

○主な構成要素は①未来医療モデルルーム病院、②先進予防ドックと予防指導、③健康長寿レストラン。これら3本柱の事業を会期中だけでなく、閉幕後も運営する。

① 未来医療モデルルーム病院

a. 最先端未来医療をモデルルームとして紹介する政府館

・政府館で使用する医薬品、医療機器は、国内外のメーカーからの承認・未承認を問わず展示。

・パビリオンとしては、ロボット医療機器などの展示・実践：世界とつなげて実証

・実際に保険医療・未承認医療も実施する AMED 附属病院設置：「万博実証実験特区」に予定される病院であることから、通常の保険診療に加えて、サンドボックスを活用して未承認医療を含む先端医療・患者申し出療養を実施する。

・未承認医療(薬や機器)は AMED が助成している研究を中心に AMED が審査したものを実施。

・「万博実証実験特区」あるいは「スーパーシティ特区」を設定し AMED が特区で実施する未承認医療を公募、審査決定する。万博開幕までは、京阪神の特区内で研究開発、あるいは実証実験を先行実施。

・同病院の位置付けは、いわば AMED 付属あるいは公認病院。会期中、閉幕後の同病院の経営も AMED が担うことも考えられる。あるいは、閉幕後の経営は、AMED から民間医療法人への委託もありえる。

- ・未承認医療は、患者の同意と実費 + α の診療費の支払いで実施。
- ・未承認医療の患者は、国内外の富裕層。メディカル・ツーリズムに寄与。
- ・万博・IR にくる海外 VIP を含む夢洲地区対応の病院としての機能も担う。

b. レガシーとして本格建築

- ・建物は、国費で建設。閉幕後は万博のレガシーを伝える施設とするので、仮設ではなく、本格建築とする。
- ・同病院で使用する医薬品、医療機器は、国内外のメーカーからの寄付。

C. 国内外の気鋭の医師、海外からの研修医も受け入れ

- ・国内外から気鋭の医師を招聘。
- ・国内大学の有名教授の診察も可能にするように、ダブルアポイントメントを採用。
- ・診察や手術にあわせて、スポットで国内外から名医を呼ぶことも可能。この場合も実費 + α 。
- ・海外から研修医も受け入れ。
- ・薬や機器は海外からの研修医も使用し、研修を受けるので、帰国後に薬や機器の安定したユーザーになる。つまり、安定的な輸出先の開拓に繋がることから、寄付企業にもメリットはある。

⇒ 恒久施設の病院としての政府館

⇒ 医療機器、薬剤等は寄付、研究病院として AMED 助成研究の未承認 医療も実施

⇒ IR の外国人客はじめ、外国人受入れ病院

⇒ 外国人研修医受入れ 病院丸ごと輸出

② 10 歳若返るパビリオン(大阪府・市パビリオン)

- ・生体情報利用でパビリオン見学時に、血圧・脈拍・血糖値などのバイタルチェック。
- ・アンチエイジングに関わる血管年齢・体組成・脳年齢・肌年齢なども、パビリオンを見学時に自動的に診断。その情報をもとに、10 歳若返るためのサプリ情報、運動指

導、生活習慣指導などを AI アプリで提供。

・提供された情報をもとに生活した場合の 10 年後の姿をアプリで提示。サプリなどは、パビリオン退出時に無料提供。あるいは、アプリから注文可能。

③ 健康長寿レストラン

・10 歳若返るパビリオンで提示された食事を健康長寿レストランで提供する。

・あるいは、国内外で研究された機能性食品で、個人個人のニーズや健康状態に応じた健康長寿の延伸につながる食事を提供する。

・機能性食品は、万博内で設置された植物工場などで生産し、提供する。

・顧客は、一般人から富裕層まで想定でき、こうした顧客層に応じたメニューを開発する。